

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2024\_v1.22

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	MFLP京都八幡I新築工事	階数	地上4F
建設地	京都府八幡市戸津戸城301番地	構造	S造
用途地域	法22条地域	平均居住人員	512人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年8月 予定	評価の実施日	2026年1月30日
敷地面積	36,620㎡	作成者	竹内渉
建築面積	21,817㎡	確認日	2026年1月30日
延床面積	80,346㎡	確認者	長尾悠平



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ホールライフカーボン (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)
<p>BEE = 2.0</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 78%</p> <p>③上記+②以外の 78%</p> <p>④上記+ 78%</p> <p>このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたWLC排出量の目安で示したものです。 ④は参考として運用分をBEI+で表示しています。</p>	

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
<p>Q 環境品質 <b>Qのスコア= 3.2</b></p>		
<p>Q1 室内環境 <b>Q1のスコア= 3.5</b></p>	<p>Q2 サービス性能 <b>Q2のスコア= 3.6</b></p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内) <b>Q3のスコア= 2.8</b></p>
<p>LR 環境負荷低減性 <b>LRのスコア= 3.8</b></p>		
<p>LR1 エネルギー <b>LR1のスコア= 4.1</b></p>	<p>LR2 資源・マテリアル <b>LR2のスコア= 3.9</b></p>	<p>LR3 敷地外環境 <b>LR3のスコア= 3.5</b></p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>・外皮性能を高め、高効率な設備機器の導入により環境負荷の低減を図るとともに、ライフサイクルCO2排出量の低減に努めている。</p>		<p>その他</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>・ほぼ全面的にF★★★★の建材を使用し、居室に開閉可能な窓面積を多く確保することで室内の良好な空気質環境に配慮している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>・リフレッシュスペースを十分に確保することにより、快適なオフィス空間の向上を図っている。</p> <p>・耐用年数の長い内装材・配管材等を採用し、建物の耐用</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>・植栽による修景、視点場からの外観パースによる検討等、良好な景観形成へ配慮した取り組みがある。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>・主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等水資源の保護に配慮している。</p> <p>・リサイクル材の採用により、非再生性資源の使用量削減に寄与している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>・燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。  
 ■評価対象のWLC排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

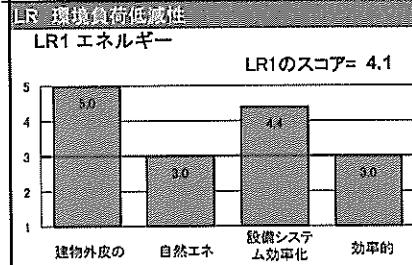
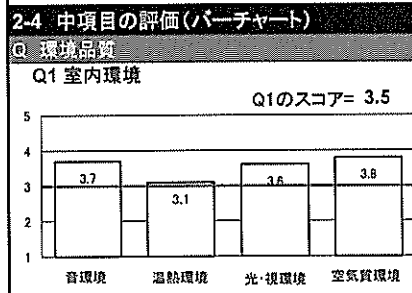
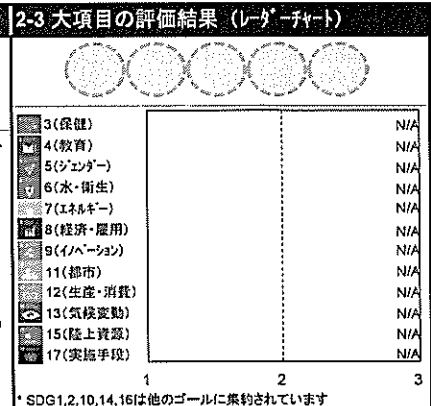
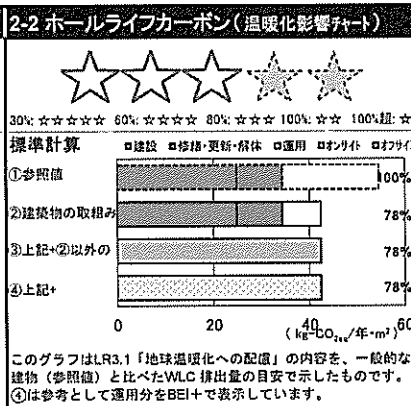
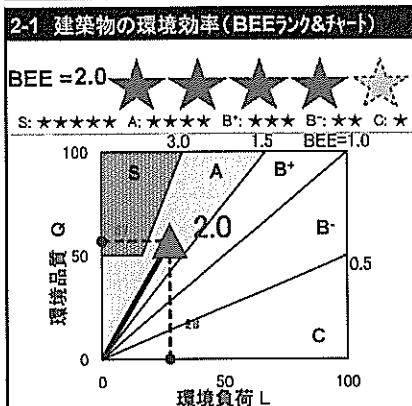
# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2024\_v1.22

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	MFLP京都八幡I新築工事	階数	地上4F
建設地	京都府八幡市戸津水戸城301番地	構造	S造
用途地域	法22条地域	平均居住人員	512人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年8月 予定	評価の実施日	2026年1月30日
敷地面積	36,620 m <sup>2</sup>	作成者	竹内渉
建築面積	21,817 m <sup>2</sup>	確認日	2026年1月30日
延床面積	80,346 m <sup>2</sup>	確認者	長尾悠平

外観パース等  
 顔を貼付するときは  
 シートの保護を解除してください



### 3 設計上の配慮事項

<b>総合</b> ・外皮性能を高め、高効率な設備機器の導入により環境負荷の低減を図るとともに、ライフサイクルCO2排出量の低減に努めている。	その他
<b>Q1 室内環境</b> ・ほぼ全面的にF★★★★の建材を使用し、居室に開閉可能な窓面積を多く確保することで室内の良好な空気環境に配慮している。	<b>Q2 サービス性能</b> ・リフレッシュスペースを十分に確保することにより、快適なオフィス空間の向上を図っている。 ・耐用年数の長い内装材・配管材等を採用し、建物の耐用
<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> ・植栽による修景、視点場からの外観パースによる検討等、良好な景観形成へ配慮した取り組みがある。	<b>LR1 エネルギー</b> ・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。
<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・主要水栓は節水器具とし、節水機器を使用する等水資源の保護に配慮している。 ・リサイクル材の採用により、非再生性資源の使用量削減に寄与している。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。  
 ■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される